

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰II 「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

第4回 若干の終末論

「もしあなたがウィルスが心配で眠れなくなるタイプなら、先進諸国でもっとも多い死因である癌や心臓発作についても心配でたまらないはずだ。だが歴史的視野で見ると、人間の命を奪ってきたのは癌や心臓病ではない。地球上に表れてから99.9%の時間、飢餓や殺人、干ばつや感染症で死んできたのだ」(アンデッシュ・ハンセン『スマホ脳』新潮新書)。

出た！ 感染症。癌の方がよほど怖いはずなのに、なぜこれほどまでに新型コロナウイルスで大騒ぎしているのか訝^{あや}っていたが、なんだ、先祖返りしてたんだ。1時間に40人亡くなっている癌より、2年で2万人そこその死者しか出ていない新型コロナウイルスを恐れる理由の一端が分かった。冷静に比較検討してみれば分かるものを、人間という生物に組み込まれた何らかのシステムが判断を狂わせるのか、はたまた先祖が恐れた何かを遺伝子が覚えていて、今頃過剰に反応しているのか。

終活というテーマは、キリスト者にとって終末論のモチーフで語るのがふさわしい。それは世の終わり(完成)を意識づけることによって、各人が自己の終わり(完成)を見事に成就して見せる信仰上の知恵だ。なぜそんなまどろっこしいことをするのか。直接的に自己の終わりに取り組まないのかというと、世の終わりの方が

距離があるように感じられるからだ。いわばそれは、世の終わりは自己の終わりのメタファーになっていて、恐ろしくて直接的には触れたくない事柄に対し、間接的に、しかし内面的に悟ることができる方法だ。

SDGs(Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)の取り組みも実に分かりやすい終末的取り組み、すなわち終活にちがいない。なぜこれほどまでに世界的に、持続的開発目標達成に向かって邁進しているのか。それは自己の終わりを直接的には見つめたくない多くの人々の、間接的な世界崩壊回避への痛々しい歩みなのではなからうか。SDGsはある種の宗教かもしれない。

主イエスは終末の兆しをさんざん並べ立てた後、付け加える。「しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引張って行く」(ルカ21・12)。世の終わりが来る前に確実に各自終わりが来る。それを忘れなければいいのだ。

三重南部ブロック担当司祭

奥村 豊



5
2022

2021年度 カトリック京都司教区本部 決算報告

平素より、京都司教区のために、ご支援ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大でいろいろな教会活動が滞っており、皆様もご苦労しておられることと思います。

さて、2021年度（2021年1月1日から12月31日まで）の、京都司教区の宗教法人本部会計の決算について、主な点をご報告させていただきます。

教区本部会計について

当年度の決算は収益計495,501千円、費用計は472,011千円で、当期正味財産増減額は、23,490千円のプラスとなりました。なお費用のうち200,000千円は、将来の福音宣教活動のために、福音宣教基金とさせていただきます。

1. 収益について

- ①小教区からの納付金は(A)～(D)は総額で99,528千円でした。前年度より34,775千円の増収です。コロナ禍の影響で公開ミサも中止されるにもかかわらず、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
- ②収益事業損益は、河原町教会敷地内ホテル再建設に係る土地借地権者からの地代等で383,235千円をいただき、またその他の収益も含め税金等を差引し、251,210千円でした。

2. 費用について

- ①神学生養成費は通常の負担の他、神学生2名の経費を計上しております。
- ②人件費は昨年度に比べ8,552千円の減額です。本部職員1名が正規職員から嘱託職員になったため、また退職金支出が前年より3,768千円減額したことが大きな要因です。

終わりに

2021年度収益は黒字決算となりましたが、地代収入によるものであり、今後、新カトリック会館の建設、衣笠墓苑の修復工事等で大きな出費が見込まれます。

今、世界の平和が脅かされ、コロナ禍がどのように収束していくのかも見えず、不安定な状況が続いています。このように多くの人々のいのちが危機にさらされている状況の中であって、わたしたちがどのように福音宣教の使命を果たしていくことが出来るのか、それぞれの生活の場で再考していかなければならないときだと痛感します。今までの内向きな、体制護持というエゴイズムからわたしたちが脱皮し、新しい福音宣教、新しい価値観、新しいいのちを見出していきたいと思います。今後とも、皆様のお祈りとご協力をよろしくお願い致します。

2022年5月1日
カトリック京都司教区
本部事務局長 北村善朗

2021年度 カトリック京都司教区本部 決算報告書

自2021年1月1日 至2021年12月31日

(単位:千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
I 経常費用	260,928	I 経常収益	229,651
1 福音宣教活動費	43,096	1 納付金収入	116,142
祭儀費	996	司教司牧納付金	952
教育養成費	3,815	司祭司牧納付金	5,873
神学生養成費	7,963	小教区納付金(A)	23,511
諸委員会活動費	286	小教区納付金(B)	64,258
教区事業活動費	28,727	小教区納付金(C)	10,669
諸活動団体補助金	401	小教区納付金(D)	1,090
アジア交流費	0	福音宣教協力金	2,677
済州交流費	0	建設分担金収入	7,112
国際交流費	473	2 福音宣教企画室	0
会議費	175	3 寄付金収入	7,193
図書費・諸会費	87	一般寄付金収入	7,193
福音宣教企画室	173	その他の寄付金	0
2 管理費	199,891	4 特定献金収入	6,142
人件費	89,341	5 墓地勘定収入	13,118
維持管理費	9,764	墓苑使用料	4,310
事務管理費	18,943	墓地祭儀収入	8,641
減価償却費	81,843	(神の園)使用料収入等	167
3 寄付金支出	10	6 雑収益	87,056
4 特定献金支出	6,142	預金利息収入	86,956
5 墓地勘定支出	11,789	雑収入	100
墓苑管理・整備費	11,728		
(神の園)管理祭儀費	61		
II 特別勘定支出	333	II 特別勘定収入	10,677
一万匹の蟻	333	一粒会	9,717
		アジア基金	350
		済州基金	27
		一万匹の蟻	333
		国際協力基金	250
III 経常外費用	210,750	III 経常外収益	3,963
固定資産売却損	10,750	固定資産売却益	3,921
投資有価証券売却損	0	投資有価証券売却益	42
墓地積立金繰入	0	墓地積立金取崩益	0
固定資産除却損	0		
特別積立金繰入	0	IV 収益事業損益	251,210
雑損失	0		
福音宣教基金	200,000		
費用計	472,011	収益計	495,501
当期正味財産増減額	23,490		
費用合計	495,501	収益合計	495,501



典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

「世の罪を取り除く主よ、
いつくしみをわたしたちに」

「栄光の賛歌」も口語体に

今回の改訂では、ミサの賛歌に残存していた文語体が、すべて口語体に改められます。「天のいと高きところには神に栄光：」と高らかな調子で始められていた「栄光の賛歌」も、「天には神に栄光：」とローマ典礼伝統の簡潔美を尊重した控えめな口語訳文になります(※1)。抑制された質素で簡略な表現は、感情や感覚よりも一段と深い静寂な領域での神への賛美を目覚めさせ、淡々と簡潔に進行していくのが本領のローマ典礼の流れと

も調和します(※2)。なお、歌唱する場合には、引き続き従来の文語体聖歌を歌うことができます。

ところで、栄光とは何でしょう？ 私達はどのような時に栄光を讃えるのでしょうか？ オリンピックのメダリストに栄光が帰せられるのは、そこに至るまでの並外れた努力や忍耐という犠牲に対して、人々が惜しみない賛嘆をささげるからです。まして戦争や災害や事故などの際に、自分の命を犠牲にして他者を救ったような人への称賛は、私達の心の底から溢れ出してきて止みません。自分に身近な出来事ではなかったとしても、それでもなおおこみ上げてくる、犠牲に対する「ごめんなさい」「ありがとう」という深遠な心のうずきを私達は無視できないのです。つきつめると栄光を讃えるということは、犠牲に対する切なる痛悔と感謝にほかなりません。ミサの始まりに「栄光の賛歌」をささげる真価もそこにあります。

実際、「ローマ・ミサ典礼書の総則」には「栄光の賛歌は、きわめて古いとうとぶべき賛歌であって、聖霊のうちに集う教会は、この歌をもって神なる父と小羊をたたえ、祈るのである」(※3)とうたわれています。父なる神、聖霊とと

もに讃えられているのは、何よりもまず小羊、つまり生け贖(犠牲)としてのキリストなのです。「栄光の賛歌(グロリア)」の「神なる主、神の小羊、父のみ子よ、世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに」は、ミサ後半の山場で捧げる「平和の賛歌(アニヌス・デイ)」の「世の罪を取り除く神の小羊、いつくしみをわたしたちに」と、重なり合い、響き合い、深め合います。

「栄光の賛歌」を歌う私達は、ミサが犠牲祭儀であること、生け贖の小羊キリストが私達の罪を取り除いたことを思い起こし、私達のために命を犠牲にしてくださった主に対する、心からの「ごめんなさい」「ありがとう」をおささげし、三位一体の神に栄光を帰すのです。

※1 ラテン語では「グロリア・イン・エクチェルシス・デオ：」で、「栄光の賛歌」は広く「グロリア」と呼ばれており、今回の改訂で日本語表題も「栄光の賛歌(グロリア)」と表記されるようになります。

※2 「儀式は簡素の美を備え、簡単明瞭であり、不必要な重複を避け、信者の理解に順応し、一般に多くの説明を必要としないものでなければならぬ」(第2バチカン公会議『典礼憲章』34)

※3 『ローマ・ミサ典礼書の総則(暫定版)』53(旧版31) 傍点は筆者。

乾隆神父のイタリア留学記(9)

京都教区司祭 大塚乾隆

幸い、今回もメールをいただきましたので、そこから考えたことを分かち合いたいと思います。

イタリアの青年活動や信徒の活動で、特徴的なものがあるかどうかということを探ねられました。一見冷たい答えに聞こえますが、「知らない・わからない」としか答えられません。というのは、日本との規模が違い過ぎるからです(笑)。



教員・学生が一堂に集まり、授業の代わりにミサ ローマ・ラテラン教会にて

聖堂や小教区の数、また信徒数や活動の種類や数が違いすぎますから、逆にローマ教区でも誰が全てを把握しているのだろうと思います。もしかしたら誰も全てを把握していないかもしれません、そもそもその必要がないのかもしれない(ローマの方、適切なことを言っています)。私が言いたいのは、「全てを把握しないといけない」と思うことが正しいのだろうかということです。

ここから少し考えたいのですが、私たちは自分たちの視点でしか、ものを見られないということでしょう。少し前に「横断してはいけない」ところで横断したり、赤信号で横断したりする歩行者に対して罰金を科した」という日本のニュースを見ました。「歩行者の安全のため」でしょうか。でも、もし同じことをイタリアでしたら、大変なことになります。そもそも信号がないところもたくさんあります。「横断歩道で信号がなくてどうやって渡るのか」と言われるかもしれませんが、こちらは歩行者を見たら車が止まります(大抵の街中の場合)。つまり、「事故を減らすために、歩行者の注意を促して罰金を取って…」ではなく、「車が止まるようにする」という、ある意味逆の発想が日本にはないわけです。



登校時のベネチア広場

また、ローマ市内ではよく「要人通過」のためにパトカーがサイレンを鳴らして通ります。日本なら前もって行程表が作られ、時間を正確に決めて、場合によっては信号を変えて…とするでしょう。でも、そもそも時間が正確ではなくて(非難しているわけではありません)、信号がない国では、日本のような考え方は通用しません。一度G7の時に見たのは、警官が立っています、緊急車両が近づいてきたのを確認して、「おい、来たぞ! 止める」と言って笛を吹きながら止めていました。よく言えば臨機応変です。「日本だったら〇〇が当たり前だ」と思っていたことを、ことごとく打ち砕いてくれるのがこの国の良いところでしょうか。その時にこそ、本当に大切なものが見えてくるように思います。

病者高齢者奉仕講座



《テーマ》「コロナ禍における新しい つながりを求めて」

講師 「京都いのちの電話」事務局長

中瀬 真弓氏

コロナ禍3年目になり、「どのような方法が持てるのか」「つながりを保つ方法は？」という声があります聞かれるようになりました。この講座は、そのような人々の疑問や悩みを共に考える機会を共有するために、オンラインで実施いたしました。

教会においても、従来の活動が難しくなり、私たちは、ともすれば「できない」「仕方がない」と否定的に現状を嘆くこともできますが、「何とか工夫しよう」と、自分で積極的に考え、人間としてのいのちのつながり、つまり人間同士の対話を大切にすることを改めて学ぶ機会になりました。

コロナ禍で、より多くの人々が孤立し、中には、命を絶つまで追い込まれているという現状があります。私たち自身、誰もが人間関係やつながり方に悩んでいます。以前の物理的な集まりや、関わりがありがたさを痛感しています。しかし、

そのような現実の中だからこそ、どこかで孤立し、苦しむ人々の側に、横に座ることができるとは思いません。

講話要旨

Be-Friending

私は「おたがいさまで寄り添うこと」と訳しています。人と人との結びつきを指す「絆」という言葉は「ほだし」ともいい、本来は「束縛」という意味で使われていました。その意味が示すように、つながり方によっては、私たちは他者をかえって不自由にし、縛ることさえあります。しかし、「おたがいさまで寄り添う」なら、自分に執着せず、他者を束縛することもなく、関心を持って他者に目を注ぎ、ありのままの「存在」を大切に、その人と一緒にいよう、理解しようという姿勢を養います。

上から目線にならず、勝手に思い込まないというあり方です。「おたがいさまで寄り添う」ために、距離をおいて自分を眺めることが助けになります。反省するの



ではなく、「こういう風にすれば良かった」とふり振り返りながら、自分の偏りや傾向に気づき、修正する勇氣を持つことです。自分をふり振り返り、気づくことは、自己を発見し、自分の視野を広げ、地道に続ける力になっていきます。

敬意を払う

どんな人にも、自分とは違う存在であるという他者性に「敬意」を払うことも重要なポイントです。賛同できない、共感できない人に対しても、自分の感情を整え、敬意を払うことによって傾聴する余地が生まれます。しっかりと聴いてくれる人がいるという安心感で、対話的關係が築かれ、相手にも自分の中にも変化が生じるようになります。

受講者からの感想

◇自分の中にある、人を見下す言葉や態度、偏見に気づき修正していくことは、人との関わり方を新しくしていくことだと気づきました。

◇コロナ禍で物理的には寄り添えないという辛い現状の中で、電話でのつながりは、有効な方法として改めて見直していたところです。自分にとってはタイムリーな内容で気付きが多くありました。



こんにちは神父さん



ホルヘ神父

所属 **グアダルペ宣教会**
生年 **1988年**
叙階 **2021年**

皆様、こんにちは。私はグアダルペ宣教会のホルヘ・ルイス・モンテロ・ガルシア神父です。

メキシコのタバスコ州で生まれました。15歳でグアダルペ宣教会の神学院に入り、高等学校に通った後、神学校では哲学や神学を勉強しました。そして、日本に来る前に、香港で英語を勉強しました。

5年前に日本に来て、京都で日本語を勉強し、日本語学校を卒業する少し前、2019年12月14日に京都のカテドラルで大塚司教様から助祭叙階式をしていただきました。その後東京に引っ越して、助祭コースのために東京神学院に入りました。1年間学んだ後、昨年3月、司祭叙階式に備えるためにメキシコに戻りました。そして昨年の5月1日、私の故郷で、タバスコ教区のヘラルド・デ・ヘスス・ロハス・ロペス司教様の手によって、司祭叙階を授けていただきました。

昨年7月に日本に帰国し、8月から京都府亀岡市に住んでいます。今年の4月から京丹ブロックの担当司祭になりました。これから、京丹ブロックの皆様と一緒に、がんばって働けたら嬉しいです。お互いに祈り合いましょう。よろしく願いいたします。



【26年ぶりのJYD開催！】

皆さんは「JYD」をご存じでしょうか？ JYDとは、全国カトリック青年大会のことです。今年は26年ぶりの開催となります！ テーマは「Christus Vivit！ それでも私はキリストと生きる」。

まさにこの教区時報が発行されるころ、横浜で開催しています（5月3日～5日に開催予定）。

コロナウイルスの影響で2年の延期をしましたが、スタッフ一同念願の対面での開催に向けて、頑張っ準備をしました。当日はゲストの方からお話を聞いたり、分かち合いをしたり、教皇様が私たちに向けて発されたメッセージをヒントに、自分がキリスト者としてどう生きるかについて考えていきます。是非、皆さんのお祈りをお願いします！

後日、この「あんでな」でご報告させていただきます。お楽しみに！

運営委員／河原町教会 **橋本仁子**



↑
JYDのHPは
こちらから

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも
見てね！

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



5月のお知らせ

教 区

正義と平和協議会 学習会

「外国人技能実習生の現状と

カトリック教会の取り組み」

講 師：山岸素子さん (日本カトリック難民移住移動者委員会委員、移住連事務局長)

日 時：14日⑤ 14:00

場 所：河原町教会ヴィリオンホール

定 員：40名 (先着順)

参加費：無料

問合せ：正義と平和協議会

申 込：TELかFaxかメールにて正平協まで

TEL：075(366)6609

⑤⑥⑦ 10:00～17:00

Fax：075(366)6679

Mail：seiheiky@kyoto.catholic.jp

聖書委員会

オンライン聖書講座

「人はなぜ痛み、苦しむのかー聖書からの問い」

12日⑥配信「義人ヨブの問いーヨブ記より」

講 師：大塚喜直司教

26日⑥配信「罪を犯した人祖ー創世記3章より」

講 師：北村善朗神父

YouTube 申込者限定配信 申込受付中

問合せ：075(366)6609 聖書委員会

広報委員会

教区時報の7月号の原稿締切日は5月23日⑥です。

訃 報

マルセル・フォールテン神父様
(レデンプトール修道会)

2022年3月2日
尼崎市にて帰天。
92歳。1956年カナダより初来日。1976年再来日。67年の司祭生活のほとんどを、日本(東京、長野、大阪、神奈川、京都)での宣教活動に献身してくださいました。神父様の永遠の安息のため、お祈りください。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：8日⑥、22日⑥ 14:00

洛星宗教研究館

28日⑥ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェルステ (女声コーラス)

練 習：12日⑥、26日⑥ 10:00

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075(701)3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会 (聖書と典礼)

日 時：26日⑥ 13:00

場 所：希望の家地域福祉センター

住 所：京都市南区東九条東岩本町 31-10

※新型コロナの状況により中止となる場合もあります。

問合せ：TEL・Fax：075(723)1135 傳裕子

心のともしび

ラジオ番組案内 (全国34局で放送)

K B S 京 都 ⑥～⑦ 朝 5：55

⑧ 朝 5：15

ラ ジ オ 関 西 ⑥～⑦ 朝 5：00

⑧ 朝 6：05

5月のテーマ「レジリエンス」

ホームページもご覧ください。

https://www.tomoshi.or.jp

心のともしび運動は今年70周年を迎えました。



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079 (431) 8601